

傳染系統

本書では、政治・経済・社会・文化等との連関から医学・医療・疾病を捉え、

外地・植民地の各地域を横断越境する複雑な医学・科学の権力関係史への考察を促す。

『いのち』と『暮らし』のありかたを長期的な歴史軸で問う、

ここから始まる『基盤』的な資料集。

外地「いのち」の資料集(一)

—「朝鮮総督府医院年報」

附.「朝鮮医育史」

朝鮮植民地支配で総督府医院は朝鮮半島に存在する病院のセンターとして君臨。日本人医院長のもと、朝鮮人と日本人が医療者・事務職員として多様な雇用形態で働き、日本人と朝鮮人が来院・受診し、治療を受けた。朝鮮の地方病や伝染病、臨床医学研究も行い、朝鮮人の医師・助産婦・看護師を養成。その記録が本書である。 慎蒼健 編・解題 全5・別巻 揃価88,000円

外地「いのち」の資料集(二)

—満洲医科大学

「南満医学堂」誕生から揺籃期を経て、「満洲医大」の最盛期にいたる事情を概観する大学史、研究業績を俯瞰できる記念誌、校友会活動の一端を示す文芸誌を収録。満洲における医学教育の基本文献、医学研究、診療、学生の文化活動を知る上で必須資料となっている。 末永恵子 編・解題 全4・別巻 揃価58,000円

外地「いのち」の資料集(三)

—満洲・朝鮮・台湾の感染症 ペスト・コレラの記録

感染症・ウイルスをその疾病構造の推移やそれを支える社会／文化的要因やひとびとの価値観の視点から考究する。いま、現在の問題を解決するために長期的な時間軸で問題をとらえなおす試み。 金沢文圃閣編集部 編 全8・別巻 揃価98,000円

シリーズ予刊

鈴木哲造 編・解題

外地「いのち」の資料集(四)

—「台湾総督府医院年報」

末永恵子 編・解題

外地「いのち」の資料集(五)

—中国占領地 同仁会

『外地「いのち」の資料集』シリーズ

推薦：鈴木晃仁（慶應義塾大学）、高岡裕之（関西学院大学）

【編集復刻版】

近代日本は、台湾、朝鮮、満洲、中国占領地、樺太、南洋諸島などアジア・パシフィックの広範な地域をその版図とした。帝国日本の医学・医療行為は、列島内で自己完結していたわけではなく、これら地域と密接に関わりながら生成・展開していた。

（日六月六）香雜の場射注るけに頭鴨

(一)「朝鮮總督府醫院年報」

所察診未外通普

附「朝鮮医育史」



朝鮮總督府醫院平面圖

本書は植民地朝鮮における「中央医療機関」として1910年に設立された朝鮮總督府醫院の業務報告書である。

疾病を73種類に分類し、民族別（「内地人」・「朝鮮人」・「外国人」）、そして男女別に患者数などの定量データを記載。

さらにこの定量データ以外の情報が本書に散りばめられており、その細部に踏み込んだとき、従来の植民地期朝鮮医学史研究では見過ごされてきた事実と遭遇、その歴史叙述に新たな展望が開かれる。

總督府醫院は1916年まで医師養成機関として朝鮮各地から朝鮮人医学生を集め、卒業生を社会に送り出した。また、總督府醫院で雇用された医師と研究者たちは、朝鮮内の京城医專、京城帝大、各道慈惠醫院はもちろんのこと、帝国日本の各地へ医師・研究者として移動。本書は様々なポジションで總督府醫院に在職・在籍した人々を教えてくれる貴重な情報源となる。

五卷

朝鮮總督府醫院第十四回年報 (昭和二年)

沿革略

光武三年明治三十二年四月二十四日舊韓國勅令第十四號ヲ以テ醫院官制ヲ發布セラレ京城北部齋洞李鎬俊邸宅ヲ以テ之ニ充テ廣濟院ト稱シ内部ノ直轄ニ屬シ醫藥救療ヲ行ヒ又賣藥業ノ取締藥料検査種痘獸畜病毒検査ヲ行ヒタリ之レ本院ノ起原ナリトス

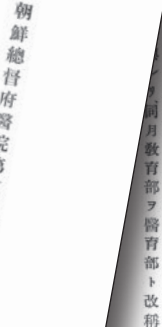
光武十一年明治四十年舊韓國勅令第九號ヲ以テ廣濟院ヲ廣シ大韓病院官制發布セラレ之ヲ議政府ニ直隸セシム新タニ病舎ヲ馬堯山上タル現在ノ敷地京城府蓮建洞二十八番地ニ建テ内部大臣院長ヲ兼攝セリ病院ノ業務ハ診療教育衛生ノ三部ニ分タレ、診療部ニテハ疾病ノ診療貧民救療ヲ、教育部ニテハ醫師藥劑師產婆看護婦ノ養成教科書ノ編纂ヲ、衛生部ニテハ地方衛生行政ヲ司リ又韓國赤十字社ノ囑託業務ヲ行ヒタリ而シテ此ノ教育部ハ醫學講習所ノ濫觴ナリトス

隆熙元年明治四十年十二月二十七日舊韓國勅令第七十三號ヲ以テ官制改正セラレ隆熙二年現在ノ醫院本館及東西一號乃至三號病室ノ新築落成ス

隆熙二年明治四十一年二月四日陸軍軍醫總監醫學博士佐藤進院長ニ任命セラレ、同日醫學講習所ノ教室ヲ新築ス現在ノ外

隆熙三年明治四十二年二月

五卷



本書では国立国会図書館未所蔵・館内限定の年度を精選収録。

一巻

病類	一級診療部		二級診療部		三級診療部		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
傷寒
肺炎
...

【朝鮮總督府醫院 略年表】

- 1899年 官立廣濟院、東西医学の両立させる方式を採用
- 1905年 第二次日韓協約締結。廣濟院から朝鮮人漢医たちを追放し、朝鮮の保健医療体制・医学教育を西洋医学に一元化
- 1906年 廣濟院に日本人医師・佐々木四方志が医長として着任
- 1907年 統監・伊藤博文の計画により、大韓醫院が設立、廣濟院は統合される
- 1907年 第三次日韓協約締結により日本人の官僚登用への道が開かれる

- 1908年 軍医總監・佐藤進が院長着任
- 1910年 韓国併合条約公布。「疾病治療」と附属医学講習所における「医師産婆及看護婦の養成」を目的とする朝鮮總督府醫院が誕生する
- 1920年 志賀潔が總督府醫院第3代院長に着任。研究範囲は微生物学から薬理学・衛生学・病理学まで拡大
- 1928年 「教育及研究の機関」として京城帝国大学医学部附属醫院に編入

(二) 満洲医科大学

「満洲医大」の活動は、教育・研究のみならず、満洲および内モンゴル地域への巡回診療や、ペスト防疫、地方病研究、開拓医学研究など地域に密着していたことにその特徴がある。それらは、植民地研究、医学史、公衆衛生史、医療史、満鉄史、移民史、引揚史、社会事業史などの幅広い分野からも注目すべき重要な内容を含んでいる。

一卷 『南満医学堂十年誌』(1921)

南満医学堂の創立から10年間の事績を総括。奉天という地域に根を下ろし、医学教育機関としての整備・充実につとめた医学堂の揺籃期を物語る資料。

室木櫻トスベ

二・三巻 『満洲医科大学二十五年史』(1936)

満洲医大ならではの特色ある取り組みの記録。例えば満洲や内モンゴルの医療過疎地への巡回診療班の派遣、中国医学書の収集・調査を行う中国医学研究室などがまとめられ、さらに関係者の「懐旧録」は、医学堂および大学の軌跡をたどるもの貴重な記録となっている。

二・三巻		二・三巻	
病病病法	眼生科	内科	外科
理化	生物	理化	眼科
学学学	学学学	学学学	学学学
新京堂	奉天	大連市	大連市
奉天	奉天	奉天	奉天
奉天	奉天	奉天	奉天
奉天	奉天	奉天	奉天
奉天	奉天	奉天	奉天
奉天	奉天	奉天	奉天
奉天	奉天	奉天	奉天
奉天	奉天	奉天	奉天

満洲醫科大學二十五年史

四巻 『満洲医科大学四十周年記念誌 附業績集』(1952)

敗戦時の満洲医大の混乱、奉天での抑留生活の回想録。「現在日本各地の大学教授在職者」などのリストにより戦時と戦後の外地を経験した「日本」医学界を総覧できる。

終戦後の在奉学生生活史
学生主事 佐々木 統一 郎

○終戦直後の奉天市
停戦詔勅の余響まだ醒めやらぬ8月12日、「ソ連軍の奉天入城を予想として、奉天市は一朝にして不穏と流言の巷と化し去り防衛軍の武装解除、中日警察官の交迭により治安の寄り道を失った同僚の不安は、続々新聞、ラジオの停止によりその耳目をも奪はれて仕舞つた。昼夜の別なく談笑する暴徒への警備に専らな日系市民にとつては、翻の如く市内に散在する数十万の同胞難民が罪と誇りに認められ行儀を厳にしながらも、救済の手を差しをべる余裕など思ひも及ばぬ実状であつた。斯の如き破壊と混乱の渦中にあつて緊急組織せられた在奉留日民会は、守中大学長を初代会長に推し、治安の恢復と難民の救済を当面の二大目標として発足したが、

活断乏という新たな難題が横たわつて居つたのである。既に終戦前から家毎との連絡を断たれた多数の学生生徒中には止むを得ず街頭に進出して生活費を求めんとする者が日を追うて増加の傾向を示し、学校当局を憂慮せしむるに到つたので、9月30日緊急学生総代、各寮務委員、各級委員を招集し寮生徒に過学生生活実態調査を行はしめた結果、その時既に学費に窮し将来共済の立たぬ者学部学生261名中178名の多数を算へ、学生生活救済問題に至急対策を講ずべき必要にせまられた。此処に於て学長初め関係者相寄り設置協議を進めた結果、大学長を会長とする学生救済会の設立を見るに到り、寮は夫々次の如き組織により9月25日より直ちに実践に移ることとなつた。 龍仁 奉

別巻 『医科：満洲医科大学文学』第8号最終号(1940)

学生・教員による評論、俳句、短歌、論文、小説等掲載。モンゴル人兵士や傷病兵を詠んだ短歌には、満洲の地域性と戦時の特殊性が色濃い。



【満洲医科大学 略年表】

1911年	「満洲医科大学」の前身である「南満医学堂」が、満鉄の大連医院奉天分院内に専門学校として設置。初代満鉄総裁・後藤新平の発案で日中両国学生に医学を教育し、将来満蒙の地で活動する医師養成を目的とした。「南満医学堂」設置は単に満鉄の教育事業という枠を超え、満洲植民地経営と深く結びついていた。(竹中憲一)
1922年	「南満医学堂」は日本の大学令により大学に昇格し、「満洲医科大学」となる
1937年	薬学専門部設置
1945年	敗戦後、閉学、「南満医学堂」創設以来34年間で医師2,700名、薬剤師300名、看護師1,000名を養成
1946年	中華民国政府により接收され国立瀋陽医学院に



(三) 満洲・朝鮮・台湾の感染症 ペスト・コレラの記録

大正 青島守備軍 虎列刺 豫防記事

青島守備軍傳染病豫防委員本部



個人の権利は天然痘に対する種痘でどのように犯されているのか？
経済の近代化にともなう新しい構造がどのように疾病をうんだのか？

ビジュアルな写真資料と詳細な記述・報告書が、
百年を超え東アジアの植民地近代を鮮やかに伝える。

Part of a Room in the Tafangshen Detention House.

新しい感染症によるパンデミックが、
これからの世界変化を加速するだろう今、
感染症の歴史資料をあらためて見直す。

一巻

二巻

明治四十三年、四年ペスト流行誌

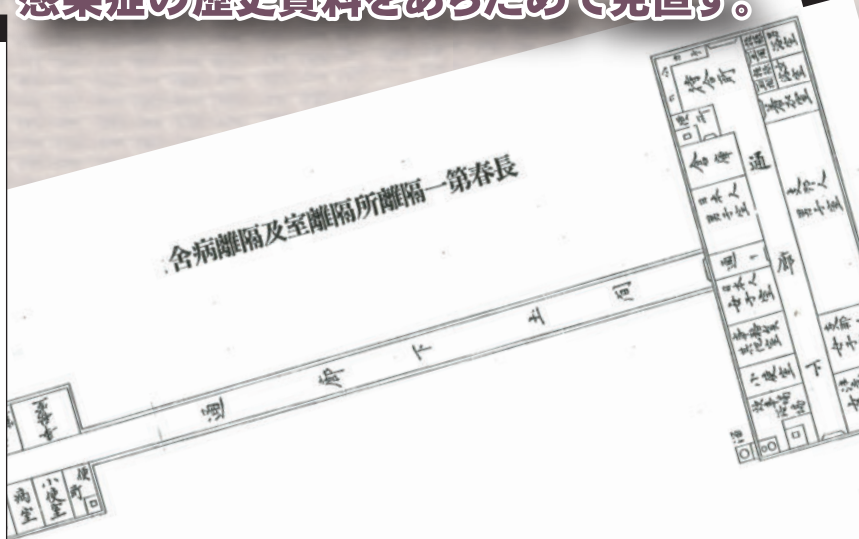
第八編 日清共同防疫會議

抑々今回「ペスト」ハ北滿地方ニ發生シ彼地ニ於テ傳染シ漸次南下セル清國下等勞動者ニ依リテ各地ニ傳播セラレタルモノナルヲ以テ縱令我カ關東州及州外鐵道附屬地内ニ於テノミ之カ豫防ニ苦心焦慮スト雖之ニ隣接セル清國管内ノ豫防措置ニシテ缺陷アルニ於テハ其ノ目的ヲ達スル能ハサルヲ以テ大島關東都督ハ二月十一日錫東三省總督ヲ訪ヒ協議スル處アリ爾來屢々交渉ヲ重ネ遂ニ二月二十八日ノ會見ニ於テ其ノ根本義ヲ定メ且同會議ニ出席スヘキ我カ委員ハ委員長佐藤友熊委員久保田政周委員小池張造トシ清國委員ハ民政使張元奇交渉使韓國鈞トシ且ツ同日第一回ノ會議ヲ開キ日清共同防疫會議規則ヲ協定シ爾來引續

日清共同防疫會議ノ根本義

同四月二十四日ヲ最終トシ四月二十三日同會議解散ノ義錫總督ヨリ同月二十九日大島都督ヨリ異存ナキニ付其ノ旨同總督ヘ回答取計方在

舍病離隔及室離隔所離隔一第春長



朝鮮總督府がコレラ流行や防疫対策全般に関して記録した防疫誌。植民地下の衛生医療制度が整備されていくなか、前例にないほどのコレラ流行が起こり、大量患死者が出た。朝鮮總督府の役割の変化や官憲と地域住民の積極的な動きにより、地域中心の防疫事業が本格的に行われ（金穎穂）、その事業の担い手として防疫自衛団が活動した様子が見て取れる。

大正八車虎列刺病防疫誌

朝鮮總督府

五巻

◎推薦文

日本帝国主義医療の 空間を研究する 重要な資料集

鈴木 晃仁

(すずき あきひと／慶應義塾大学・医学史)

19世紀の中葉から20世紀の中葉を「帝国主義の世界」と呼ぶ。ヨーロッパ諸国、アメリカ合衆国、ソヴィエト連邦が、それぞれの国内で多くの問題を見つけながら、帝国主義の理念に基づいて世界中に広がっていった時代である。ここでは、政治、経済、文化が、帝国の中で緊張と抗争を作り出していた。ヨーロッパの疾病や医学についても、それと同じような帝国主義の緊張が作り出されていた。個人の権利は天然痘に対する種痘でどのように犯されているのか、経済の近代化にともなう新しい構造がどのように疾病をうんだのか、そして梅毒や精神病が帝国主義の世界でどのように表現されたのか。法学や経済学や哲学や文学が、帝国主義の疾病と医療と身体に直面する時代であった。

少し遅い時期に、日本の医学も東アジアで帝国主義の世界に入っていった。台湾、樺太、朝鮮、満洲などを植民地として、その医療と疾病と身体を近代化しようとしていた。この近代化はヨーロッパ的であり日本的でもあった。19世紀の末には、日本の医学が急速にドイツなどのヨーロッパ医学の最先端を学んだことは事実である。それと同時に、その医療を、自国と東アジアの都市や植民地で実践しようとしていたことも重要である。1894年の日清戦争の年に、北里柴三郎が香港でペスト菌発見の論文を発表し、朝鮮の植民地化の翌年である1911年に起きた満洲でのペスト大流行に日本の調査団も赴き、1930年代から40年代の精神病調査では、北大が樺太、満洲医科大学が満洲、九大と台北大が台湾の異民族というような帝国主義的な優生学を確立していった。日本はドイツから急速に学び、それを急速に拡大した植民地に適用している医療の帝国でもあった。

そのような視点で考えるときの必須の史料がこの『外地「いのち」の資料集』にまとめられたものである。この資料集の焦点は、朝鮮、台湾、満洲、樺太である。もちろん台湾の熱帯医療も重要な主題であるが、満洲や樺太の寒冷地も、非常に面白い、あまり研究されていない主題である。寒帯から南洋まで縦に伸びている日本の帝国主義の医療の空間を研究する重要な背景である。優れた学者たちが解説を書いており、研究者はもちろん、大学や各地の図書館として最適の資料集である。

高岡 裕之

「本書を推薦します」

(たかおか ひろゆき／関西学院大学文学部教授)

遼陽附近清國管内楊林子ニ於ケル我カ検病班ノ検診



アジアにおいて最も急速に産業と文明が発達した日本が、
欧米と対抗しつつどのように東アジア諸国に影響を及ぼしていったのか？

Medical Corps on an Inspection Visit, Yanglintzu, near Liaoyang.—No. 1.

植民地主義・グローバリズムの影響によって医療・公衆衛生に関わる知識・制度が東アジア各国間で密接に連関する。本書は学際性と国際性を帯びる東アジアの「新しい医学史」の発展的な思考・研究に向けて重要な基礎資料を集成提供する。

外地「いのち」の資料集(一)

—「朝鮮総督府医院年報」
附.「朝鮮医育史」



編・解題—**愼 蒼健** (東京理科大学教授)
造 本—B5 (別巻のみA5) 判・並製・総1,728頁
揃 価—88,000円 (配本毎・別巻分売可)

【第一回配本】2020年5月 配本揃価25,000円 ISBN978-4-909680-72-3
五巻 (282頁)
『朝鮮総督府医院第14・15回年報 (1927-1928年)』 (朝鮮総督府医院、1931年)
別巻 (198頁) ISBN978-4-909680-75-4 (別巻のみ10,000円)
『朝鮮医育史』 (佐藤剛藏、佐藤先生喜寿祝賀会、1956年)
* 解題・総目次

【第二回配本】2020年11月 配本揃価30,000円 ISBN978-4-909680-73-0
二巻 (326頁)
『朝鮮総督府医院第5回年報 (1917年)』 (朝鮮総督府医院、1919年)
三巻 (184頁)
『朝鮮総督府医院第11回年報 (1924年)』 (同上、1926年)

【第三回配本】2021年5月 配本揃価33,000円 ISBN978-4-909680-74-7
一巻 (554頁)
『朝鮮総督府医院第3回年報 (1914-1915年)』 (同上、1917年)
四巻 (184頁)
『朝鮮総督府医院第13回年報 (1926年)』 (同上、1928年)

外地「いのち」の資料集(二)

—満洲医科大学



編・解題—**末永 恵子** (福島県立医科大学講師)
造 本—A5/B5判・並製・総1,130頁
揃 価—58,000円 (配本毎・別巻分売可)

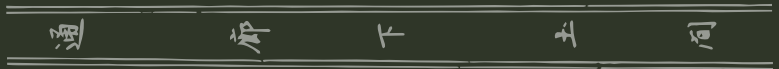
【第一回配本】2020年5月 配本揃価36,000円 ISBN978-4-909680-76-1
二 (272頁)・三巻 (316頁)
『満洲医科大学二十五年史』 (黒田源次、満洲医科大学、1936年)
別巻 (202頁) ISBN978-4-909680-78-5 (別巻のみ8,000円)
『医科：満洲医科大学文学』8号 (満洲医科大学輔仁会学芸部、1940年3月)
* 解題・総目次

【第二回配本】2020年11月 配本揃価22,000円 ISBN978-4-909680-77-8
一巻 (156頁)
『南満医学堂十年誌』 (南満医学堂、1921年)
四巻 (184頁)
『満洲医科大学四十周年記念誌 附.業績集』
(宮永主基男ほか編、満洲医科大学輔仁同窓会、1952年)



外地「いのち」の資料集(三)

—満洲・朝鮮・台湾の感染症
ペスト・コレラの記録



編 集—金沢文圃閣編集部
造 本—A5/B5判・並製・総約2,100頁
揃 価—98,000円 (配本毎・別巻分売可)

【第一回配本】2020年7月
一巻 (290頁) 朝鮮編①
『大正八年虎列刺病防疫誌』 (朝鮮総督府、1920年)
二巻 (220頁) 朝鮮編②
『大正九年コレラ病防疫誌』 (同上、1921年)

【第二回配本】2021年1月
三巻 (420頁) 満洲編①
『明治四十三四年南満洲「ペスト」流行誌』 <本文編>
(関東都督府臨時防疫部、1912年)
四巻 (200頁) 満洲編②
『明治四十三四年南満洲「ペスト」流行誌』 <図編> (同上)

【第三回配本】2021年7月
五巻 (220頁) 満洲編③
『明治四十三四年南満洲「ペスト」流行誌』 <附録写真帖編> (同上)
六巻 (150頁) 満洲編④
『青島守備軍「虎列刺」予防記事 大正八年』 (青島守備軍伝染病予防委員本部、1919年)
『大正十五年コレラ防疫大要』 (南満洲鉄道株式会社地方部衛生課、1927年)

【第四回配本】2022年1月
七巻 (150頁) 台湾編①
『明治三十二年台湾ペスト流行紀事』 (台湾総督府民政部警察本署衛生課、1901年)
『<講和>台湾所見／台湾紀行 (伝染病研究所研究会第40回例会筆記)』
(『細菌学雑誌第33号』、志賀潔／紀野好學、1898年8月)
八巻 (340頁) 台湾編②
『台湾衛生概要』 (台湾総督府民政部、1913年)
別巻 (60頁)
『ペスト禍籠城記』 (竹内徳三郎、商和会編輯部、1941年)
* 総目次



〒920-0867 金沢市長土塀2-16-30
Tel 076-261-8884 Fax 233-3111

□書店様へ…ありがとうございます。直接小閣までお申し込みください
※図版はすべて本書より。本内容見本作成に際し飯島渉・鈴木哲造氏らの
論考を参考にした。収録資料は予定です。価格は税別 051/06/4000